

その2 外国語科・音楽科の「教科担任制」

前期課程5・6年生の外国語科と音楽科は、後期課程の英語科・音楽科教諭が、授業を行っています。写真は、6年生の外国語科(英語)の授業。児童生徒は、授業を通して教科担任制に自然に慣れ、後期課程の授業を楽しみに感じているようです。後期課程の授業にスムーズに接続できると、先生方も期待しています。

英語の発音が上手になってきたよ

ALTの先生とすらすら話したいな



普段の子ども達
のようすはHPで



いいたて希望の里学園

までいの里のこども園

「いいたて希望の里学園」「までいの里のこども園」のホームページでは、いきいきと学び活動する子ども達の様子を紹介しています。楽しいですよ。一度のぞいてみてください。(左のQRコードからどうぞ)

義務教育学校のメリットを生かす
教育活動をレポートします

いいたて希望の里学園

お知らせ
したい!

学園レポート



特別寄稿「全2回」

飯館村教育アドバイザー
同教育委員会学校教育指導員・臨床心理士
海野 和夫

飯館村の学校教育の現状とこれから <その2>

東京電力の原発事故による全村避難、福島市松川町の仮設住宅にはたくさんの方々が住まいでした。中学生の田植え踊りなどを携えての訪問に同行したり、また時折一人でお茶飲みに参加していました。ここではいつも、ほぼ全員、特に高齢者が「これからの飯館村で大事なものは教育」と異口同音に語っておられました。わが子が孫の自立、進路、職業、結婚、村の再生を考えたとき、飯館村の誰もが、村のこれからは教育にかかっている、と感じているのが明らかでした。

2019年に認定こども園「までいの里のこども園」、2020年に義務教育学校「いいたて希望の里学園」が設立されました。こども園は原発事故直後から保育所と幼稚園を統一の方向で検討を開始し、また小中学校は、コミュニティスクール(地域に開かれた学校)の導入、次いで小中・貫校(教育課程特例校)の検討、そして国に義務教育学校の制度ができた機会に希望の里学園の設立となりました。

これらは菅野典雄村長の発議によって始まり、教育委員会と学校関係者、村民有志、そして文部科学省をはじめとする

村内外の専門職や有識者が参集して設立に至っています。飯館村の未来と子供たちの将来を見据えて望ましい学校教育のあり方を構想して、長い時間と順序を踏んで協議し、村の人たちが「教育が大事」と願う学校教育のかたちを創り上げました。

飯館村の高等学校のことも、原発事故前から村役場内で、「相農飯館校の再生を考える」のテーマで協議を重ねていました。それを基本として、少し前には村立高校の設立を目指しました。残念ながら道半ばになりましたが、再検討し、飯館村でこども園、小中学校、高校と接続する学校制度を創設すべきと考えます。

教育格差を生み出す最大の要件は教育機会の不平等と言われています。こども園から高校まで一貫して飯館村で学ぶことができる村づくり、これこそが飯館村の新たな魅力と価値の創出です。若い人たちが志高く真剣に学び合う飯館村、そうなればうれしいですね。

飯館村の皆様、大変お世話になりました。ありがとうございます。飯館村の二層の発展を祈ります。

までいの里のこども園 運動発表会

9/19

「きらきらかがやけ! みんなのえがお」をテーマに開催。新型コロナウイルス感染症の対策を行いながら、日頃から取り組んでいる運動遊びなどを通して、成長する子どもたちの姿を、ご家族に披露しました。



学園 NEWS イタネちゃんポーチを発売! 「いいたて学」の実践

「いいたて希望の里学園」では、「いいたて学」の授業で、児童生徒が、地域に根ざした実践的な活動を行っています。村の公式キャラクターを活用した「イタネちゃんポーチ」の製作も、「いいたて学」の多様な活動の一つで、試行錯誤を経て完成したポーチが、この夏、発売となりました。道の駅でも販売され、すでに製作した300個はすべて出荷済み。9月10日には、職員が注文したポーチを、菅野翼さん、佐藤姫愛さん(共に9年生)が、役場に届けてくれました。収益金は、交流が続くラオスへアジア教育友好協会(AEFA)を通じて、全額が寄付されます。

先輩たちの活動を引き継いだポーチです



ポーチをお届け。菅野さん(中央)と佐藤さん(右)